



## 平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年1月30日

上場取引所 東

上場会社名 日清食品ホールディングス株式会社

コード番号 2897 URL <http://nissin.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長・CEO

(氏名) 安藤 宏基

問合せ先責任者 (役職名) 取締役・CFO

(氏名) 横山 之雄

TEL 03-3205-5111

四半期報告書提出予定日 平成27年2月9日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、証券アナリスト向け電話会議)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年3月期第3四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	323,949	3.9	20,164	△7.3	27,536	△2.4	19,025	2.2
26年3月期第3四半期	311,723	9.1	21,746	13.6	28,201	20.2	18,624	30.4

(注) 包括利益 27年3月期第3四半期 26,709百万円 (△21.9%) 26年3月期第3四半期 34,180百万円 (117.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	172.60	171.80
26年3月期第3四半期	168.98	168.31

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第3四半期	508,345	361,634	69.1
26年3月期	479,469	342,300	69.4

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 351,362百万円 26年3月期 332,739百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	40.00	—	35.00	75.00
27年3月期	—	40.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	35.00	75.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	440,000	5.4	26,000	△6.2	31,000	△11.0	20,000	3.8	181.44

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有  
 新規 1社 (社名) 福建日清食品有限公司、除外 1社 (社名)

(注)詳細は、【添付資料】P. 4(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)をご覧ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、【添付資料】P. 4(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)をご覧ください。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無  
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無  
 ④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

27年3月期3Q	117,463,685 株	26年3月期	117,463,685 株
27年3月期3Q	7,231,478 株	26年3月期	7,242,013 株
27年3月期3Q	110,228,737 株	26年3月期3Q	110,214,527 株

- ② 期末自己株式数

- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は完了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】P. 3(連結業績予想などの将来予測情報に関する説明)をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間の我が国経済は、政府・日銀の各種政策が経済に徐々に波及し、雇用・所得環境の改善傾向が続くなかで、景気は緩やかな回復基調が続いております。個人消費についてはやや弱さがみられますが、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響は全体として和らいでいます。

一方で、円安などによる原材料価格の上昇やエネルギーコストの増加などコスト上昇圧力が続き、先行き不透明な経営環境が続いております。

このような状況の中、当社グループでは新たに強化した製品開発の施設である「グローバルイノベーション研究センター」を拠点に消費者ニーズに対応した付加価値の高い製品の開発に取り組み、より一層のブランド価値向上に努めました。「食の安全」については、昨年12月に発生した冷凍パスタ商品の異物混入の問題に関して喫緊の大きな課題として真摯に受け止め、より一層、品質管理体制の強化を図り、食の安全・安心に取り組んでおります。

また、成長性の高い新興国を中心にグローバル戦略を推進するとともに、グループとしてシナジー効果の最大化を目指し、さまざまな経営環境にも即応できる強固な企業基盤の構築に努めております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高では前年同期比3.9%増の3,239億49百万円となりました。利益面では、営業利益は前年同期比7.3%減の201億64百万円、経常利益は前年同期比2.4%減の275億36百万円、四半期純利益は、前年同期比2.2%増の190億25百万円となりました。

#### <連結業績>

(単位：百万円)

区分	平成26年3月期	平成27年3月期	対前年同期比	
	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日	金額	%
売上高	311,723	323,949	+12,226	+ 3.9
営業利益	21,746	20,164	△ 1,581	△ 7.3
経常利益	28,201	27,536	△ 664	△ 2.4
四半期純利益	18,624	19,025	+ 401	+ 2.2

報告セグメント別の業績の状況は、次のとおりであります。

#### ① 日清食品

日清食品(株)の販売状況は、袋めん類では、今期さまざまな新しい食べ方を提案してきた「チキンラーメン」の売上が堅調に推移したことや、ノンフライ袋めん「日清ラ王」も「冷し中華」、「担々麺」の新製品が貢献し、前年を上回りました。カップめん類では、「カップヌードル」群が既存商品に加え、4月に発売した「カップヌードル トムヤムクンヌードル」の販売も好調であったことから、全体の売上増に大きく貢献しました。また、「日清焼そば U.F.O.」も前年を上回る売上となりました。

その他、ルゥでもレトルトでもない「第3のカレー」という新ジャンルを確立すべく発売した「日清カレーメシ」が売上を伸ばし、「即席ライス」群の売上も伸ばしました。

この結果、報告セグメントにおける日清食品の売上高は、前年同期比3.5%増の1,629億4百万円となりました。一方、セグメント利益は、原材料価格の上昇や物流コストが増加したため、前年同期比5.1%減の189億22百万円となりました。

#### ② 明星食品

明星食品(株)の販売状況は、既存主力ブランドの売上が好調でした。袋めん類では、第1四半期にリニューアル発売した「明星 チャルメラ」シリーズと「明星 中華三昧」シリーズが引き続き順調に推移し、カップめん類では、「明星 一平ちゃん夜店の焼そば」シリーズの売上が前年を上回りました。ただ、その他の商品が苦戦し、全体としては売上減となりました。利益については、原材料費や減価償却費が増加した影響で前年を下回りました。

この結果、報告セグメントにおける明星食品の売上高は、前年同期比1.4%減の291億4百万円となり、セグメント利益は、前年同期比3.0%減の12億77百万円となりました。

#### ③ 低温事業

日清食品チルド(株)の販売状況は、主力ブランドである「行列のできる店のラーメン」と食べごたえのある麺が特徴の「太麺焼そば」が引き続き好調で、前年同期比売上増となりました。また、新発売した簡単調理の「日清ラ王」と「親子で食べる」をコンセプトとした「妖怪ウォッチやきそば」も好評をいただき順調に推移しました。

日清食品冷凍(株)の販売状況は、具付きラーメン類、焼そば類を中心に売上が伸長しました。特に、昨年9月にリニューアル発売した「冷凍 日清具多」シリーズの「辣椒担々麺」や「冷凍 日清中華 上海焼そば」が売上を伸ばしました。スパゲティ類については、昨年12月の冷凍パスタ商品回収の影響があったものの前年をやや上回りました。利益面では、原材料費の増加や冷凍パスタ商品回収による影響などで、前年を下回りました。

この結果、報告セグメントにおける低温事業の売上高は、前年同期比3.6%増の429億75百万円となり、セグメント利益は、前年同期比78.7%減の1億42百万円となりました。

#### ④ 米州地域

米州地域は、価格競争の影響を受けにくい企業体質への改善を目指し、高付加価値商品の強化に取り組んでおります。米国においては、大手流通との取り組みを強化し、売上は昨年を上回って順調に推移しました。メキシコは、税制改正(IEPS)による小売価格上昇等の影響が続くものの徐々に回復傾向で、セグメント全体では円安の影響もあったことから増収増益となりました。

この結果、報告セグメントにおける米州地域の売上高は前期比10.6%増の258億52百万円、セグメント利益は前年同期比50.5%増の5億3百万円となりました。

#### ⑤ 中国地域

中国地域は、中国大陸市場での販売エリア拡大と大都市を中心にターゲットに合わせた的確な商品アプローチにより増収増益となりました。特に中国版カップヌードル「合味道」は、大都市の若者をターゲットとしてシンプルかつスタイリッシュで付加価値が高い都市型商品として認知され、華東・華南地区を中心に売上が伸長しております。

この結果、報告セグメントにおける中国地域の売上高は、前年同期比16.1%増の256億17百万円となり、セグメント利益は、前年同期比17.0%増の26億1百万円となりました。

また、報告セグメントに含まれない事業セグメントである国内の菓子事業、飲料事業及び欧州地域、アジア地域を含んだ「その他」の売上高は前年同期比0.8%減の374億95百万円となり、セグメント損益は、前年同期比3億3百万円減少の3億23百万円の損失となりました。

#### (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の当社グループの総資産は、前連結会計年度末に比べ288億76百万円増加し、5,083億45百万円となりました。当第3四半期連結会計期間末の資産、負債及び純資産の状況は次の通りであります。

資産の増加につきましては、主に現金及び預金が212億1百万円増加したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ95億42百万円増加し、1,467億11百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金が96億83百万円増加したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ193億33百万円増加し、3,616億34百万円となりました。これは主にその他有価証券評価差額金が72億83百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の69.4%から69.1%となりました。

#### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成26年5月8日の「平成26年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第1四半期連結会計期間より、日清食品（香港）管理有限公司、東莞日清包装有限公司、日清湖池屋（中国・香港）有限公司、福建日清食品有限公司は重要性が増したため連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

（連結子会社等の事業年度に関する事項の変更）

連結財務情報のより適正な開示を図るため、第1四半期連結会計期間より、ニッシンフーズ(U.S.A.)Co., Inc.、明星U.S.A., Inc. の連結子会社2社について、決算日を12月31日から3月31日に変更しております。また、連結子会社のニッシンフーズメキシコS.A. de C.V. と持分法適用関連会社であるニッシン・アジノモトアリメントスLtda. について、連結決算日の3月31日に仮決算を行い連結する方法に変更しております。

これらの決算期変更に伴う、平成26年1月1日から平成26年3月31日までの当該連結子会社及び持分法適用関連会社の損益については、利益剰余金の増減として調整しております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	79,923	101,125
受取手形及び売掛金	51,298	64,454
有価証券	11,725	4,577
商品及び製品	10,032	11,303
原材料及び貯蔵品	10,926	11,789
その他	11,282	10,722
貸倒引当金	△369	△437
流動資産合計	174,819	203,534
固定資産		
有形固定資産		
土地	51,063	51,275
その他（純額）	96,556	95,665
有形固定資産合計	147,620	146,941
無形固定資産		
のれん	1,832	838
その他	4,477	6,792
無形固定資産合計	6,309	7,631
投資その他の資産		
投資有価証券	131,843	129,881
その他	19,203	20,677
貸倒引当金	△327	△320
投資その他の資産合計	150,720	150,237
固定資産合計	304,650	304,811
資産合計	479,469	508,345

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	43,461	53,144
短期借入金	3,332	3,828
未払金	24,536	26,534
未払法人税等	7,306	5,079
その他	21,530	19,218
流動負債合計	100,167	107,805
固定負債		
長期借入金	9,441	8,785
退職給付に係る負債	6,290	5,481
その他	21,269	24,639
固定負債合計	37,001	38,906
負債合計	137,168	146,711
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	25,122	25,122
資本剰余金	48,416	48,416
利益剰余金	263,585	274,504
自己株式	△21,710	△21,682
株主資本合計	315,413	326,360
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	17,562	24,845
繰延ヘッジ損益	38	31
土地再評価差額金	△5,898	△5,898
為替換算調整勘定	5,214	5,930
退職給付に係る調整累計額	408	91
その他の包括利益累計額合計	17,325	25,001
新株予約権	1,180	1,518
少数株主持分	8,381	8,753
純資産合計	342,300	361,634
負債純資産合計	479,469	508,345



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	311,723	323,949
売上原価	172,046	181,775
売上総利益	139,676	142,173
販売費及び一般管理費	117,930	122,009
営業利益	21,746	20,164
営業外収益		
受取利息	821	634
受取配当金	1,725	1,543
有価証券売却益	493	—
持分法による投資利益	1,596	2,307
為替差益	1,613	2,537
その他	512	648
営業外収益合計	6,762	7,672
営業外費用		
支払利息	193	177
その他	113	123
営業外費用合計	307	300
経常利益	28,201	27,536
特別利益		
固定資産売却益	136	64
投資有価証券売却益	484	2,501
その他	24	3
特別利益合計	645	2,569
特別損失		
固定資産廃棄損	471	237
減損損失	144	1,170
その他	192	510
特別損失合計	809	1,918
税金等調整前四半期純利益	28,036	28,187
法人税等	9,194	9,017
少数株主損益調整前四半期純利益	18,842	19,169
少数株主利益	218	144
四半期純利益	18,624	19,025

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	18,842	19,169
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7,731	7,244
繰延ヘッジ損益	67	△6
為替換算調整勘定	5,345	3,230
退職給付に係る調整額	63	△306
持分法適用会社に対する持分相当額	2,128	△2,621
その他の包括利益合計	15,337	7,539
四半期包括利益	34,180	26,709
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	33,644	26,712
少数株主に係る四半期包括利益	535	△2

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	日清食品	明星食品	低温事業	米州地域	中国地域	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	157,451	29,522	41,498	23,383	22,056	273,911	37,811	311,723	—	311,723
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	2,388	1,251	930	—	94	4,665	13,033	17,698	△17,698	—
計	159,839	30,773	42,428	23,383	22,151	278,576	50,844	329,421	△17,698	311,723
セグメント利益 又は損失 (△)	19,934	1,317	669	334	2,224	24,480	△19	24,460	△2,714	21,746

（注）1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、国内の菓子事業、飲料事業、  
外食事業等並びに欧州地域、アジア地域を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△2,714百万円には、退職給付関係費用301百万円、のれんの償却額△630百万  
円、セグメント間取引消去等110百万円、グループ関連費用△2,496百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間（自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	日清食品	明星食品	低温事業	米州地域	中国地域	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	162,904	29,104	42,975	25,852	25,617	286,453	37,495	323,949	—	323,949
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	2,342	3,530	1,108	0	85	7,068	15,086	22,154	△22,154	—
計	165,247	32,635	44,083	25,853	25,702	293,522	52,582	346,104	△22,154	323,949
セグメント利益 又は損失 (△)	18,922	1,277	142	503	2,601	23,447	△323	23,123	△2,958	20,164

（注）1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、国内の菓子事業、飲料事業等  
並びに欧州地域、アジア地域を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△2,958百万円には、退職給付関係費用544百万円、のれんの償却額△517百万  
円、セグメント間取引消去等△60百万円、グループ関連費用△2,925百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。